

いすいた報

第 51 号 昭和 41 年 11 月 15 日 発行

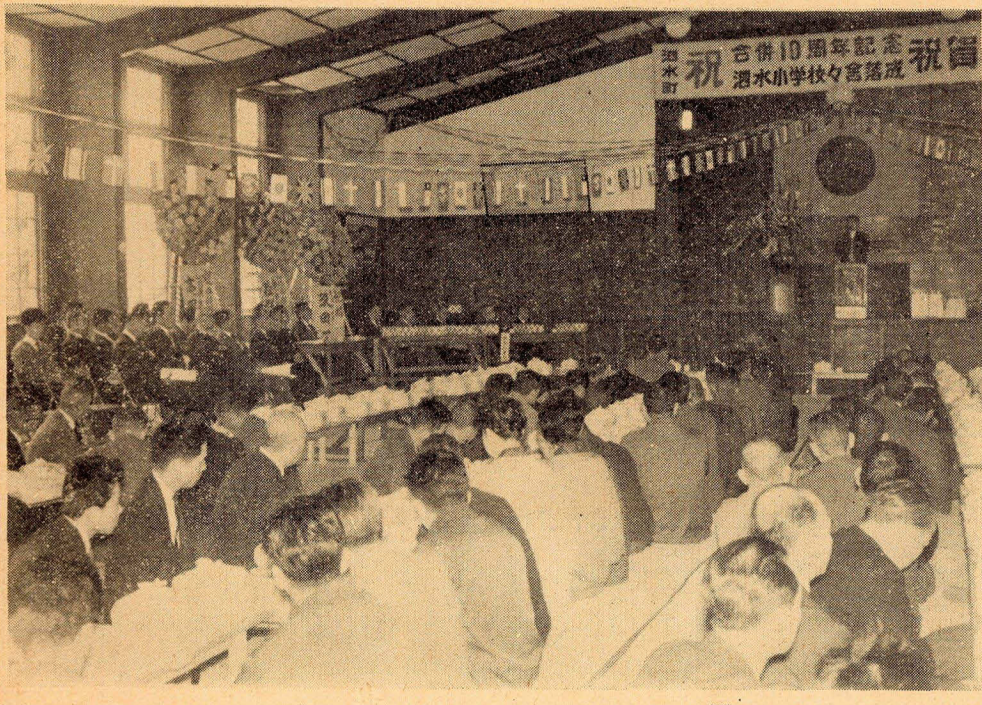
発行所 場 役 所
 酒 水 町 役 場
 増 田 義 孝
 編 集 孝
 広 報 編 集 委 員 会
 印 刷 刷
 水 前 寺 印 刷 工 店
 酒 水 支 店

町の人口 (10月31日現在)

世帯数	2,053戸
現住人口	9,444人
男	4,462人
女	4,982人

41年度町づくりの目標

1. 郷土の歴史を尊重しよう
2. 道徳再建運動を推進しよう
3. 生活の合理化を考えよう
4. 町づくりの話し合いを進めよう



写真説明 昭和40年4月1日に合併十周年式典が、泗水小学校講堂で盛大に挙行された。(40、4、1写)

農業振興や福祉費で六千八百万円

約二億の四十年年度決算が承認される

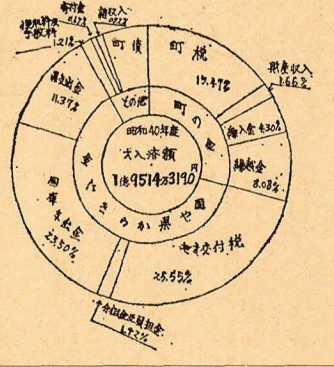
十月十八日に招集された町議会の第三回定例会は、四十年年度の一般会計決算などを承認して同日二十日に閉会しました。町内五地区で推進している第一次構造改善事業が第二年度を迎えたための農林水産費のいちじるしい増加を中心に、町民の福祉事業費の増などで二億円の大会に近づいた一般会計の決算のあらましをみてみますと、次のようです。

四十年年度の歳入は決算からみて一億九千五百四十四万三千九百九十円という、二億に近い膨張をみせました。二億円に近い決算書の歳入内容は次のようです。

パーセント以上は、地方交付税等の国や県の支出金で占められています。歳入総額に対する比率を、収入別にみますと次のようです。

地方交付税 二五、五五%
 国庫支出金 二二、三三%
 県支出金 一一、三九%
 これらを昨年度の決算書での比率と比較しますと、地方交付税で三、三六%、国庫支出金で五、五二%、

四十年年度の交付額は四千九百八十六万八千円で、三十九年度にくらべて六百六十四万九千円の増になっています。合併当時の三十九年度に比較しますと四千四百三十六万八千円の増であり、当年年度の歳入決算が三千七百九十五万八千円でしたから、いかにこの交付税が増えてきたかを知ることができます。



九月二十七日から十月一日までの五日間、昭和四〇年度の町一般会計の歳入歳出や、国民健康保険特別会計の歳入歳出の決算について、の関係帳簿、証書類の監査を行なった監査委員は、次のような意見(概要)を町長に提出しました。

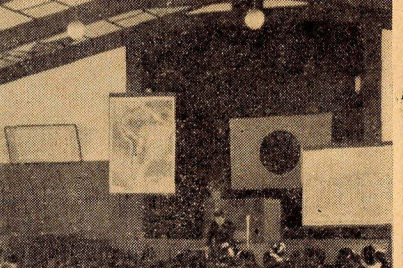
総説 予算台帳や出納日計簿など関係諸帳簿について慎重な内容検討を行なった結果、決算は計数的に正確であり内容も正当であった。一般会計 一般会計の国庫への依存度は毎年上

町税は三千九百四十四千円 歳入比で二五、四七%

二億円に近い歳入の中に町税として受け入れられたのはどの位かと見ても、金額にして三千九百四十四千円、比率では一五、四七パーセントにすぎません。この町税は、次のような

町税は三千九百四十四千円 歳入比で二五、四七%

二億円に近い歳入の中に町税として受け入れられたのはどの位かと見ても、金額にして三千九百四十四千円、比率では一五、四七パーセントにすぎません。この町税は、次のような



昭和40年9月21日から11月13日まで国の派遣で南北米視察を終えた町長の報告会 (41、1、16東地区)

町税は三千九百四十四千円 歳入比で二五、四七%

二億円に近い歳入の中に町税として受け入れられたのはどの位かと見ても、金額にして三千九百四十四千円、比率では一五、四七パーセントにすぎません。この町税は、次のような

町税は三千九百四十四千円 歳入比で二五、四七%

二億円に近い歳入の中に町税として受け入れられたのはどの位かと見ても、金額にして三千九百四十四千円、比率では一五、四七パーセントにすぎません。この町税は、次のような

町税は三千九百四十四千円 歳入比で二五、四七%

二億円に近い歳入の中に町税として受け入れられたのはどの位かと見ても、金額にして三千九百四十四千円、比率では一五、四七パーセントにすぎません。この町税は、次のような

監査委員の意見書 帳簿整理の不十分を指摘

昇しているが、これは構造改善事業の拡大等によるもので、ただ町歳入の基本である町税徴収率九八、六八%には、滞納整理など一層の努力を要する。特別会計 保険税の徴収率九七、二七%は年々向上しつつはあるが、更に一層の努力を望み、反面、療養費の減少に努力されたい。

町税は三千九百四十四千円 歳入比で二五、四七%

二億円に近い歳入の中に町税として受け入れられたのはどの位かと見ても、金額にして三千九百四十四千円、比率では一五、四七パーセントにすぎません。この町税は、次のような

町債は一千四十万円 歳入比は五、三三%

町債は右の表で見られるように、一千四十万円がなされました。

町債は一千四十万円 歳入比は五、三三%

町債は右の表で見られるように、一千四十万円がなされました。

昭和40年度末の起債一覧

起債目的	起債金額	借入年月日	借入先
起債目的	410千円	昭和29. 5. 25	先
費	300	30. 4. 13	省
費	900	30. 5. 30	省
費	700	31. 3. 31	省
費	1,400	31. 3. 31	省
費	1,000	31. 5. 24	省
費	1,000	31. 5. 10	省
費	1,000	31. 3. 31	省
費	11,000	39. 7. 30	省
費	5,100	39. 8. 15	省
費	4,000	40. 5. 20	省
費	1,000	40. 5. 31	省
費	21,000	40. 5. 31	省
費	1,000	40. 3. 31	省
費	5,700	40. 8. 2	省
費	1,500	41. 4. 30	省
費	1,800	41. 5. 31	省
費	1,400	41. 5. 31	省

町債は一千四十万円 歳入比は五、三三%

町債は右の表で見られるように、一千四十万円がなされました。

町債は一千四十万円 歳入比は五、三三%

町債は右の表で見られるように、一千四十万円がなされました。

町債は一千四十万円 歳入比は五、三三%

町債は右の表で見られるように、一千四十万円がなされました。

町債は一千四十万円 歳入比は五、三三%

町債は右の表で見られるように、一千四十万円がなされました。

町債は一千四十万円 歳入比は五、三三%

町債は右の表で見られるように、一千四十万円がなされました。

余滴

十月十二日から三日間、全国公民館大会が山形市で開催された。山形市で開かれた。出稼地帯であり、三チャン農業という父親不在の農業も東北から生まれた。一方では、昭和二八年に施行された青年学級振興法制定の原動力になった土地であり大鵬とならぶ横綱柏戸関生誕の地でもある。山形市の道路は全部直線による交差、道幅は狭いが綺麗な町という印象を第一に受ける。それは大会会場にもつながり、県行事としての盛り上りをひしひしと肌で感ずる。それは県自体の産業が気象や土地の悪条件で阻害されるため、恵まれた自然美と豊富な泉源を結びつけた観光開発という重点施策のためかもしれない。旅の食事にはワラビ、里芋の類に菊の花ピラと深山の珍珠のみで山海の珍味とは縁遠い。食事のことは次の問題にして全国一、二位にある出稼者達の生活基盤である農業条件の整備に眼を転じたが残念ながら期待に反して国道という中心にして、東北でも国道を中心にして道路の整備は進められ工場は進出し次々に住宅は建てられている。しかし、この国道や鉄道から離れると水田と桑畑が同耕し野菜畑がそれにつづく耕地が温存され、その中で耕耘機が背負われ、その農業近代化の重荷にあえいでいる。国や地方公共団体、大企業等が直接推進する開発事業と、農民自らの意識開発が先行しなければならぬ農村開発事業の違いが車窓に転々する田畑で物語られている。主婦達の家計簿には農機具代を中心にした営農投資の過剰が重圧にのっているのかかわらず、耕耘機への奉仕農業に疑問を持たず、人間の主体性を忘れてのりか日〇構造改善の基盤整備を阻害する配分問題は農地に奉仕する農民像の露出たろう

